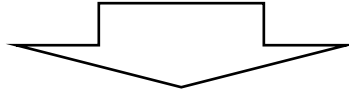


## 1. 研究のテーマ

西唐津小中	<b>基礎学力を高める</b> 指導方法の研究
研究主題	～ <b>主体的、対話的に学ぶ児童</b> ・生徒の育成を目指して～

### ☆西唐津小中での共通理解☆



- ・「学ぶ力」 ⇒意欲や興味・関心, 挑戦する気持ち, 粘り強く取り組む姿勢
- ・「基礎学力を高める」 ⇒「唐津市アクションプラン」(授業づくり1・2・3)を基本とした授業づくり
- ・「主体的・対話的に学ぶ」⇒主体的とは, 自分の考えをもち表現する。  
対話的とは, 「交流」(ペアタイム, グループタイム, みんなでタイム)を通して, 自分の考えを広げたり深めたりする。

### ☆西唐津小の研究☆



- ☆「自分の考えが書ける子」にするための手立てを工夫する。
- ☆「問題解決」に向かう意見交流のさせ方を工夫する。

## 2. 研究テーマ設定の趣旨

西唐津小学校は、1学年2クラス、全校生徒317名の学校である。数年前から道徳の授業実践に取り組んできた。その結果、道徳の学習では普段自信がなく発表に消極的な児童も少しずつ発表する姿が見られるようになった。一方で、学力の落ち込みは深刻な状況が続き、学力向上は喫緊の課題であった。全国学力学習状況調査(6年)、県学習状況調査(5年)や標準学力検査(1～3年)において国語科・算数科の落ち込みが際立って大きかった。授業改善によって授業の流れは児童にも浸透し、一時間の見通しは持てるようになってきた。また、ワークシートを活用することで、どのように自分の考えを書けばよいか理解できる児童も増えた。成果として無回答率の減少など、数値にも少しずつ表れはじめてきた。反面、自分の考えを持つことができずに、友だちの考えに頼っている児童の姿があり、グループ活動において、自己の考えを表現することが負担となり、勉強に対する意欲を失っているという課題が明らかになった。自分の考えに自信を持ってない低学力児童は、自己肯定感が低く、支持的風土の醸成や自己肯定感を高めていくことが本校の児童に求められているのである。

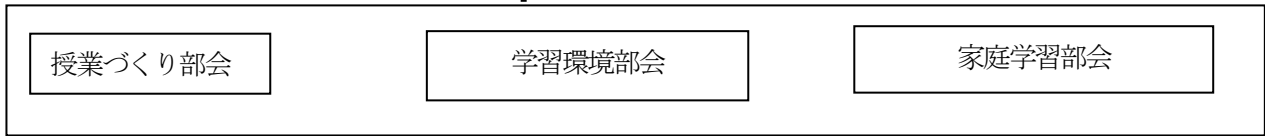
そこで、小学校では今年度から実施される学習指導要領で育成すべき資質・能力の一つとしてあげられている「生きて働く知識・技能の習得」に留意したいと考えている。

以上のことから、「唐津市アクションプラン」を基本とした授業づくりをすすめながら、基礎学力向上のための方策を探り、小中連携して主体的・対話的に学ぶ児童・生徒を育てたいと考え本テーマを設定した。

### 3. 研究組織

西唐津小中研究推進委員会（管理職・教務主任・研究主任・各部代表）

※各学校の職員は、次の3部会に所属する。



校内研究推進委員会

（管理職・教務主任・研究主任・研究副主任・研究推進委員）

※西唐津小の組織

授業づくり部会 (授業改善)	学習環境部会 (学習環境・生活習慣)	家庭学習部会 (家庭学習改善)
○基礎学力定着の方策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジタイムの活用 (スキルの強化など)</li> <li>・基礎学力テスト</li> <li>・補充学習時間の設定</li> </ul> ○指導法改善の研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業づくりのステップ1・2・3」の活用</li> <li>・学習過程をそろえる</li> <li>・授業の中に「交流」を位置づける (アクションプランの実践)</li> <li>・「振り返り」の時間の設定</li> </ul>	○学習の土台作り <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣 (きんぼしカード)</li> <li>・生活習慣 (西小よい子アンケートの活用)</li> <li>・児童会活動としての取り組み (児童の主体的活動)</li> </ul> ○学習環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級・校内掲示の充実 (算数コーナーを設ける)</li> </ul>	○家庭学習徹底の方策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連携・啓発 (基本的な生活習慣, 食生活, 家庭学習の必要性について, 家庭も巻き込んで取り組んでいく)</li> <li>・家庭学習のやり方を教える</li> <li>・家庭学習を実践するための手引きの作成や見直しなどを行う (きんぼし9年学習運動)</li> </ul> ○自主学习への支援と具体的手立ての研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数「やる気ノート」の仕方の紹介</li> </ul>

### 4. 研究の内容 (授業づくりの視点)・・・『授業づくりのステップ1・2・3』Vol.1』より

- 本時のゴールがイメージできる分かりやすい「めあて」の示し方。
- 学んだことを生かし、子どもの発言を取り上げた「まとめ」の仕方。
- 既習の知識をもとに、「一人でタイム」(書く活動)で自立解決ができるようにするための手立ての工夫。
- 交流『グループタイム』や『みんなでタイム』(話し合う活動)で、交流活動を活性化するための手立ての工夫。
- 「めあて」にそった「振り返り」の仕方の工夫
- 既習事項を活用するための 環境整備の充実。
- ICT利活用の推進。

## 5. 今年度の取り組み

### (1) 唐津市学力向上アクションプランを基本とした授業実践

唐津市学力向上アクションプランの学習過程（めあて→パーソナル→グループ→クラス→まとめ→ふり返り）を基本とし、算数科を中心にどの教科でも取り組みを継続していく。全校で統一して実践を重ねる。

- ①学習形態カードを全教室に配布（各学級・特別教室）
- ②全校統一したノート指導

### (2) 基礎学力向上のためのチャレンジタイムの実践

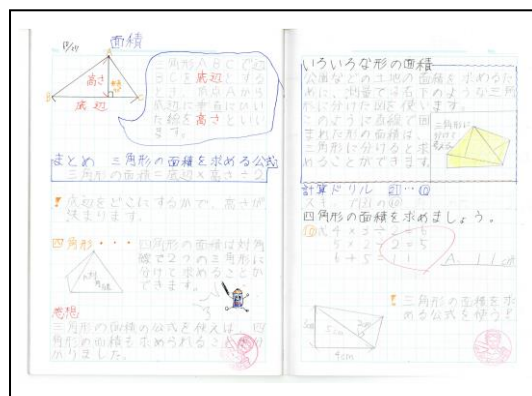
○チャレンジタイムは、8:15～8:30までの15分間、級外も入って行く。

チャレンジタイム 水曜日（国語）	・基礎基本を中心とした問題（漢字・文法・短文づくり・意味調べ）など学級の児童の実態に合わせて、取り組む。
チャレンジタイム 金曜日（算数）	・計算を中心とした問題

※チャレンジタイムでも家庭学習でも、すぐ使えるように、夏休みの校内研修で資料の準備を行う。

### (3) 家庭学習の工夫

- 「家庭学習の手引き」を家庭へ配布する。
- 算数「やる気ノート」の取り組み
  - ・算数の時間に書いたノートを視写する、ポイントを書いたす、類似問題を解くなどができるように高めていく。
  - ・最初に自学する目的、書き方（学び方）を取り立てて指導する。
  - ・ノート紹介



算数「やる気ノート」

### (4) 教室や学校内の環境整備

- 児童のノートの紹介（算数は各学年1枚）・・・毎月1回はり替えを行う。
  - ・授業時間に書いたノートを紹介する。  
（算数ノートは、PWだけでなく、GWやCWでも活用するので、積極的にPW、GW、CWに参加する態度を育てる手立てとなる。）
  - ・教師間で掲示等を見合うことで、授業の情報交換を行う。

○算数コーナーを設ける。

#### (5) 主体的にかかわる校内研究

- 交流を取り入れた授業研究会の実践を行う。
- 先進校の公開授業などを通して、教職員間の情報交換を活性化し、授業力向上を図る。
- 校内で、全員、年間1回の授業公開  
〈グループ研、全校研（2回）、学力向上指定の授業公開（低・中・高）〉  
※全校研、学力向上推進指定事業の授業公開では、中学校の先生方の参加も予定している。

#### (6) 期待する研究の成果

- 課題に対する見通しを的確にもつことで、既習事項を活用しながら、主体的に課題に取り組み「自分の考え」を持てるようになるであろう。
- 交流を行うことで、意見を比較させながら自分の考えを広げ・深めていくような学びが身につくであろう。
- 教師一人ひとりが、アクションプランに則った授業形態を実践しながら、児童の主体的・協働的な学び合いについて研究を深めれば、「学ぶ力」を育むことにつながるであろう。
- チャレンジタイムや補充学習、家庭学習の充実への取組を行うことで、基礎学力を向上させることができるであろう。